

PRESS RELEASE

報道関係各位

2026年3月10日
ビープラッツ株式会社

ビープラッツ、AI ビジネスの収益化を加速する
「AI マネタイズ支援 (AI×Monetization)」を強化
～複雑な「トークン課金・GPU リソース仕入れ」に基づく
従量課金請求の自動化を支援～

サブスクリプション統合プラットフォーム「Bplats®」を展開するビープラッツ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：藤田 健治、以下、ビープラッツ）は、急速に市場参入が相次ぐ「生成 AI サービス事業者」向けの AI マネタイズ支援を「AI×Monetization」という新たな取り組みとして強化いたします。これに伴い、導入支援サービスや機能の拡充をあわせて実施いたします。クラウドサービスや光コラボレーション事業者、MVNO 通信事業向けに培った複雑な「従量課金・多層階層管理」のノウハウを生成 AI 特有の「トークン消費量」や「GPU リソース」に応じた高度な料金計算・請求管理へと応用することで、国内における生成 AI サービスの事業化と市場拡大を強力に支援して参ります。

bplats®
AI × Monetization

<背景>大規模汎用モデルから「多様な AI の共存」へ

昨今の AI をめぐる大きな動きの中では、ビッグテックによる大規模汎用 LLM（ChatGPT や Gemini 等）が注目されがちです。しかし、現在はフリー／商用問わず数多くの特化型 AI エンジンが日々誕生し、進化を遂げています。

これは、誰もが多様な AI エンジンを組み合わせて「新しいサービス」を即座に生み出せる状況を意味しており、あたかもインターネット黎明期に無数の Web サービスが誕生した際の熱狂を予感させます。この大きなうねりの中で、現在4つの主要なトレンドが顕在化しています。

1. 特定用途に特化した SLM/VLM や RAG の台頭

汎用 LLM は万能な反面、高コストやプライバシーリスク（データ流出懸念）が課題です。そのため、現在はオンプレミス環境や特定の業界・企業データのみを学習させた SLM（小型言語モデル）や、画像理解に長けた VLM（視覚言語モデル）、独自の外部知識を組み込む RAG（検索拡張生成）への移行が、B2B AI における最大の潮流となっています。

【AI×Monetization】これらは「一律の月額定額」ではなく、「モデル利用料+データ更新料+計算リソース料」といった多層的な課金体系が主流となります。そのため、事業者には顧客ごとに異なる複雑な課金プランを柔軟に設計・運用する能力が求められます。

2. 「AI-Native SaaS」への進化：コアロジックの置換

従来の SaaS は、人間が記述したコード（プログラム）がサービスの核でした。しかし、今後はチャットボットや BI ツールを筆頭に、バックエンドの主要ロジックを AI エンジンが代替する「AI-Native SaaS」へと切り替わっていきます。

【AI×Monetization】SaaS ベンダーは「ソフトウェア提供者」から、「AI の再販・運用を担うマネージドサービスプロバイダー」へと変貌します。ここでは、AI エンジンの「仕入れ（トークン課金）」が発生するため、「変動する仕入れ原価」と「定額または従量の販売価格」の差分をリアルタイムに管理し、マージンを確保する高度なバックエンドシステムが不可欠となります。

3. AI アグリゲーション（複合利用）の一般化

AI の「適材適所」が進む中、ユーザー側は「どの AI を使うか」ではなく「期待する結果が得られるか」を重視するようになります。これを受け、複数の AI エンジンを経断的に組み合わせ、ユーザーに最適な解を提供する「AI アグリゲーションサービス」が増加しています。

【AI×Monetization】事業者は OpenAI、Anthropic、Google など複数のベンダーへの支払いを一括で管理した上で、自社独自の価値を付加した請求を行う必要があります。「マルチベンダーの仕入れ管理」と「ワンストップの請求発行」の両立がビジネスの成否を分けます。

4. 「ソブリン AI」とローカル AI への回帰

推論コストの最適化とデータ主権（データ・ソブリン）の観点から、クラウド依存を脱却し、自前で計算リソースを確保する動きも加速しています。国や組織が自国の文化・法律に基づき自立的に AI を運用する「ソブリン AI」の概念が広がる中、かつてのデータセンターブームのように、計算リソースを貸し出す「AI データセンター」の需要が急増しています。

【AI×Monetization】ここでのビジネスモデルは単純なサーバー貸しに留まらず、「GPU 時間単位の従量課金」や「計算リソースの小分け販売」へと高度化しています。API 経由の利用実績に伴う「複雑な従量計算」と「契約管理」を自動化する仕組みが、事業運営の基盤となります。

<AI ビジネスの成功を支える「契約と集金のインフラ」>

AI の進化は、事業者に対して「計算リソースや API の『仕入れ』と『販売』の極端な複雑化」をもたらします。今後の AI ビジネスは、トークン、API、GPU 稼働時間、サブスクリプションが混在する、人類史上最も複雑な課金体系を伴うと言っても過言ではありません。

これからの日本で期待される「AI を使いこなして商売をする無数の事業者」にとって、不可欠なのは「AI エンジンそのもの」だけではなく、それを持続可能なビジネスに変えるための「集金と契約のインフラ」です。

ビープラッツの提供する Bplats は、20 年にわたる実績と 4 つの特許、そして 1 万に迫るソースコード群によって、この複雑極まる AI ビジネスに対応するキャパシティを十分に備えています。

また、電子帳簿保存法等の法令対応や、厳密な契約管理が求められるこの領域は、AI による自動生成だけでは代替不可能な「信頼の基盤」です。当社は、AI 時代の SaaS 事業者が直面する収益化の壁を打破し、日本の AI 産業の発展に貢献して参ります。

<Bplats の生成 AI 事業者向け優位性>

Bplats は、パッケージングされた豊富な機能を活用し、これらの課題を短期間で解決します。

- ① ハイブリッドモデルの標準実装：初期・固定・従量・付加価値を組み合わせた契約・課金管理をパッケージ機能内で実現できます。

- ② 柔軟な料金計算エンジン： トークン単価、リソース利用時間など、独自の計算ルールに基づいた従量課金ルール的设计が可能であり、請求までの業務を自動化できます。
- ③ 請求・明細の自動生成： 各種 AI エンジンから抽出した利用データや料金をインポートし、月額固定費と合算したオンライン請求書および利用明細を自動的に発行します。
- ④ 利用者への信頼： 顧客自身が契約内容の変更や請求履歴の確認を行えるマイページを自社ブランディングのサイトにて実装できます。電子帳簿保存法をはじめとする国内ルールにも適合しています。

【Bplats とは】

「Bplats」は、ビープラッツが自社開発する、サブスクリプションビジネスのための統合プラットフォームです。さまざまなサブスクリプション型のサービスを一通貫で、オンライン販売から管理まで行うことができます。また、販売チャネル構築や仕入先など、各産業、各業種にあわせた課題解決を提案し、IoT、ハイテク、通信、クラウドコンピューティング、SaaS、自動車、機械、家電などのさまざまな産業に対し、数多くのサブスクリプションビジネスをワンストップで実現してきました。ビープラッツは、今後も既存産業の枠を超え、新たなデジタル時代のサービス連携を「Bplats」を通じて提案して参ります。

【ビープラッツについて】

ビープラッツは、ビジネスモデル転換や新たな価値創造を支えるサブスクリプションビジネスの「基盤」を通じ、日本企業の強みを生かしたビジネス革命を後押しすることをミッションとしています。新たな AI ビジネス市場に対して『AI×Monetization』を掲げ、複雑な『従量課金』を解き放ち、すべての AI をビジネスに変える、唯一無二の課金プラットフォームを提供して参ります。

会社名： ビープラッツ株式会社
(証券コード：4381 (東京証券取引所グロース))

URL： <https://www.bplats.co.jp/>

設立： 2006年11月

【本件に関する報道関係の方からのお問い合わせ先】

◆ビープラッツ株式会社 広報

TEL：03-6811-6816 FAX：03-6262-9439 E-mail：pr@bplats.co.jp